

# 令和3年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 広徳 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

#### 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

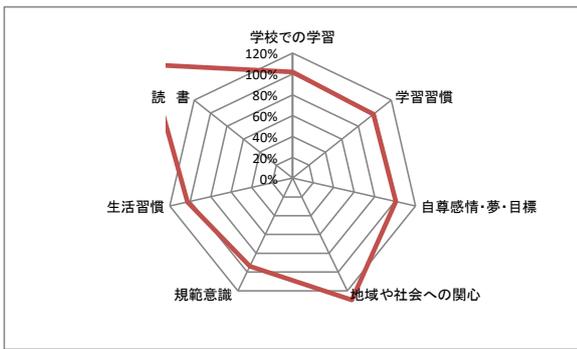
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	言葉の特徴や使い方に関する事項、話す・聞く能力、書く能力についてはいずれも全国平均を上回っているが、読む能力が全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	漢字を正しく書く問題の正答率が全国平均を上回っている。また、目的や意図に応じ資料を使って話すことや、自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考えることがよくできていた。	
	努力が必要な問題	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けまとめて書いたり、目的を意識して必要な語や文を見付けて要約して書いたりすることに課題がある。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「図形」・「測定」・「変化と関係」・「データの活用」の領域については、全国平均を上回っているが、「数と計算」の領域については全国平均を少し下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	グラフから数量を読み取ったり、項目間の関係を読み取ることができていた。また、速さが一定であることを基に道のりと時間の関係を考察すること、データを二次元の表に分類整理すること、どのようなデータを集めるべきか判断することができていた。	
	努力が必要な問題	数量や図形、数量関係を考察して見出した事実を説明したり、問題を解決するために筋道を立てて考えてその考え方を説明することに課題がある。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>毎日、同じくらいの時刻に起き、同じ時刻に寝る生活習慣が確立されてきている。しかし、長時間にわたってゲームをする児童が全国平均を上回っており、携帯電話・スマホやゲームとの付き合い方に課題がある。</p> <p>地域の行事に参加している児童が多い。市民センターや児童館など様々なところでイベントが開催されていることで、児童が地域と触れ合う機会に恵まれている。しかし、新聞を読んでいる児童が少なく、社会への関心をさらに高めていく必要がある。</p> <p>授業以外での学習時間は上昇傾向にあり、全国平均に近づいている。また、読書をする時間は全国平均を上回っている。自分で計画を立てて学習する力を育てていく必要がある。</p> <p>タブレット端末を活用した学習により、学校でコンピュータなどのICT機器を高い頻度で使用していると回答している児童が多かった。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

「広徳漢字検定」の取組や読書活動を推進し、言葉に関する能力や読む能力の育成をめざして継続的に取り組む。授業の中に書く活動を取り入れ、自分の考えを記述したり、伝えたい内容を要約したり、多様な文章で表現したりする能力を高めることができるような学習指導の工夫を行う。また、タブレット端末を含めたICT機器を効果的に活用することで、興味・関心を高め、自ら取り組む力を育てていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

中・高学年においては、「自学ノート」の取組を推進し、自ら設定した課題について調べたりまとめたりする能力を伸ばしていくとともに、自主学習の習慣の確立を図る。ゲーム・スマホ等の付き合い方やルール・マナーについて、学級活動等を通して継続的に指導していく。各学年において、生活科や総合的な学習の時間で、地域の方や近隣の学校との積極的な交流を行い、シビックプライドの心情を育て、自分自身や地域を大切にできる児童を育てていく。